ドスケベ騎空士ジェシカ
inアウギュステ
ADULT ONLY
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

屋台村で団長さん達とはぐれてしまいました。
『おねーさん独り？俺達とヤらない？』
「!!」
アイルを探して一人旅をしていた頃から
こういった事は何度かありました。

「っ…やめてください。
手を離さないと痛い目を見ますよ」
でも今日は
いつもとは違ったのです

『男も連れずにこんなトコ来ておいて
何言ってんのさ(笑)』
「…っ!?」
祭りを抜け出して来たのか、
辺りは体を重ねる人たちで溢れていました。

ぬぬ♡

呆気にとられている私をよそに
彼らはユカタヴィラをはだけさせ
巧みな指使いでおっぱいを責めました。
「はっ…あんっ…♡」
自分でも驚くほど甘えた声が漏れ、
体の奥が熱くなっていくのを
感じました。

ゾクッ

『随分大人しくなったじゃん』
『オッケーってことで良いんだよね？』
「……っ♥」
きっと周りの空気にあてられたのでしょう。
いざとなったら簡単に追い払えると
自分に言い訳をし…

ビクン

私はこの人達に
体を預けてしまいまったのです…

数分後、私は考えの甘さを思い知りました。
「あっ駄目…そこぉ…♥」
『またキュッて締まったね ここもジェシカちゃんの弱点かな』
「ああ…ぅ…はひっ♥っんん♥♥」
私たち騎空士が魔物退治のプロなら彼らは女を悦ばせるプロ…あっという間に私のカラダは快楽の虜にされてしまいました。
『ヘコヘコ腰浮かせちゃって、そんな気持ちいい?』
「…はいっ♥っすご…すごいです…っ…♥」
『ははっ、ジェシカちゃんに悦んでもらえると俺らも嬉しいよ』
「あっ♥いくっ…またイきますっ♥」
『もっと大人しい子かと思ったけど凄い乱れっぷりだな』
「んひぃッ♥…っ…♥」
いまごろ団長さん達は私を探してくれているのでしょうか。皆に内緒でこんな事をしていると思うとすごく興奮してしまいます…♥
これじゃあ家出をしたアイルの事も責められません。
『そろそろ俺らも気持ちよくさせてくれない? ジェシカちゃんのおマンコを使ってさ…』
「…っ…はい…♥」
アイル…団長さん…悪いお姉ちゃんでごめんなさい…♥
ぬちゃ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぴゅっ
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
ぢゅぷ
レロ
レロ
ギュッ♥

「はぁっ…♥あっあっ…ああッ!?♥♥」
『あ～やっぱ若い子のマンコ最高だわ…ッ』
愛撫の時の繊細な指使いとは打って変わって、
力強いピストンで私の最奥を突いてきます。
『どう、ジェシカちゃん。俺のチンポ美味しい？』
「はっ…あんっ♥っ…こっ…これ好きっ♥♥」
『これ、じゃなくてチンポだよ。ちゃんと呼んでほしいな？』
「ちっ♥ちんぽっ…♥おちんぽしゅご…ひっ♥」
代わる代わる犯される間…頭の中はずっと真っ白で
お腹…おまんこから昇ってくる快楽をひたすらに
貪り続けました。
『ジェシカちゃんも腰振ってみ？
もっと気持ちよくなっから』
「…っはひ…♥」
「あっ!?♥っ…♥あッ…♥ぉ…おッ…♥♥」
『お～イイ声で鳴くね！
美少女が出しちゃ駄目な声だけど(笑)』
「～～～～ッ♥♥」
あまりの快楽に下品な声が漏れてしまい…
その恥ずかしさまでもが、カラダを昂ぶらせました。
『ジェシカちゃん最高すぎ…キンタマ空になりそうだわ。
これラストね…ッ!!』
そう言うと、一層激しく腰を打ち付け始めました。
「おっ♥んぉオ…ッ♥イくっ♥私も…イっちゃう♥♥」
はッ♥
はッ♥
はッ♥
ぬぷっ♥
ぬぷっ♥
ずぷッ♥
ぱんッ♥
おッ♥
おッ♥
ぱんッ♥
ぶぴゅっ♥
たぱんっ♥

『ねぇジェシカちゃん…
明日もギュステに居ンの？』

その問いかけに私は…

『おっ、ジェシカちゃん
こっちこっち！』

『来てくれると思ってたよ！』
指定されたビーチの岩陰には
たくさんの男の人が待っていました。

ドキ♥
たぷん♥

ドキ♥

「あのっ…この人達は…？」
『ゴメンね～。
宿でダチに声かけたら
参加させろってうるさくてさぁ…』

『まぁ、ヤる前からおまんこ濡れ濡れの
ジェシカちゃんには
コッチのほうが良いでしょ？』
「そ…そんなこと…っ♥♥」

図星でした。
道中、道行く人々のえっちな視線を一身に浴び続け
私のカラダはすっかり発情してしまったのです。

『それじゃ、さっそく始めようか』

そわ

そわ…

「こう・・・ですか？」
教わった通りに股を開き水着をずらします。
『ジェシカちゃんのおマンコに
最初にザーメン当てたヤツから順番な』
そう言うと皆さんはおちんぽを扱きはじめました。
「はっ…♥はっ…♥はっ…♥」
たくさんのおちんぽを突きつけられるうちに
昨夜のセックスの快感が思い出され…
待ち遠しさのあまり腰を突き出してしまいました。

『おっイイねそれ狙いやすいよ！』
『マジエロいなこの子…っ』
『ジェシカちゃんこっち向いてッ…』

しばらくすると最初の一人が精液を吐き出し
私のおまんこを白く染めました。
『あ～～いきなりアタリか…
ちょっとイージーすぎたかな？』

『早漏野郎め、得したな(笑)』
『もう2番目からは早いもの勝ちでいいっしょ』

「んあッ♥あッ…♥激し…っあ…イくッ♥♥」
それからは休みなしでひたすら
セックスをし続けました。
『また？すぐイきまくるドスケベマンコだなぁ』
「ごめ…っなしゃい…ッ♥」

回数を重ねる毎に
慣れるどころかどんどん敏感になり
すっかりイキ癖がついてしまいました。
「ひっ…またっ♥…ッ…んうぅッ♥」

性欲を吐き捨てるだけのような
乱暴なセックスでも
私のカラダは悦んでしまい
子宮は子種を受け入れるために
降りてきてしまいます…♥

「んぁ…ひッ…またナカにぃ…っ♥」
『皆で孕むまで犯して
騎空士なんて引退させちゃうから
覚悟してね』
「――ッ♥♥♥」

「ひぐッ♥イっイぐっ…♥ケツアクメしましゅ…っ♥♥」
お尻の穴も、日が落ちる頃にはすっかりセックス用の穴にされてしまいました。
『何回ハメても飽きないな…ジェシカちゃん今日はコッチの宿に泊ってかない？』
「ぉオ…っ…♥…そっ…それって…っ♥」
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
ぱちゅんッ♥
ぱちゅんッ♥
ぱちゅんッ♥
明日にはアウギュステを離れなくちゃいけないのに…この人達はまだまだ私を開放してくれそうにありません♥
END.

◆あとがき◆
光の戦士として世界を救っていたら
新刊を落としてしまいました。

■奥付■
誌名　　：ドスケベ騎空士ジェシカin以下略
サークル：Handful☆Happiness!
発行者　：七原冬雪(ofuyukio@gmail.com)
発行日　：2019/08/10

※複製、複写、WEB上への無断転載を禁じます。
※Unauthorized copying or upload is prohibited.
※禁止私自转载、加工。